

単元名

2年「時こくと時間」

本単元で育成する資質・能力

【思考力・判断力・表現力】

本時のポイント

時間や時刻を挿絵に針を書き込み、60進法の考えを深めていく授業

1 単元について

- 本単元は、学習指導要領の第2学年の内容B（3）「時間について理解し、それをを用いることができるようにする。」を受けて設定されている。日・時・分について知り、それらの関係を考えさせる。

学校や家庭の場面で、ある時間から何分後（何分前）の時刻や、時刻と時刻との間の時間について常時計や模型時計を用いて日常生活の場面の時刻や時間を考える【思考力・判断力】を育て、針の回転を数直線状に表すことで、児童が時間を量としてとらえ表す【表現力】を付けていきたい。

- 本学級の児童の実態と指導の手立ては、次の通りである。

児童	児童の実態	指導にあたって
2年C	<ul style="list-style-type: none">○毎時間、落ち着いた雰囲気での学習することができる。○何時読み、何時半読みの時刻を読み取ったり、長針や短針を時計に書いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none">○問題をじっくり読み取り、問題の時間をイメージさせて考えさせる。○1時間を超える時間は、1時間＝60分を使って考えさせる。

<主体的な学びにつながる課題発見・解決学習>

- ・教科書の町探検の場面をもとにして、いろいろな時刻を正しく読み、自分の日常生活（登下校や起床・就寝時間）等で60進法を活用して、始まりの時刻や終わりの時刻の間の時間についての課題意識をもたせる。

2 目標

- 時間について理解し、それをを用いることができるようにする。

3 評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
○日常生活の場面に応じた時刻や時間を読み、時間の生活に生かそうとしている。	○時計や常時計の目盛りをもとに、長針や短針の位置関係に着目して時間や時刻を調べている。	○時間や時刻を、時計や常時計で求めることができる。また、時間の単位換算ができる。	○時刻と時間の違いや、1時間＝60分、1日＝24時間の関係を理解している。

4 単元の計画（全5時間）

次	時	学習内容	評価の観点				評価規準 (評価方法)
			関	考	技	知	
一 時ごとと時間	1	【課題の設定】・【整理・分析】 ○教科書の町探検や自分の日常生活（登下校や起床・就寝時間）等で60進法を活用することで、時刻や時間についての課題意識をもたせる。	○			○	・時計の仕組みや時間の関係を用い、長針と短針の動きと時間（分）の関係を理解している。
二 一日の時間	2	○常時計を活用し、生活場面の時刻を、午前・午後をつけて読むことに気付く。				○	・1日＝24時間であることが分かり、午前・午後をつけた時刻の表し方を理解している。
三 時間の計算	3	【実行・振り返り】 ○模型時計を活用して、時と分が混じった時刻や時間を求めることを考える。 →本時		○			・長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べている。
四 練習	4	【まとめ・創造・表現】 ○既習事項の理解を深める。				○	・既習事項の理解を深めている。
五 力だめし	5	○既習事項の確かめをする。				○	・既習事項の理解を深めている。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- 時間について理解し、それを用いることができる。

(数学的な考え方)

(2) 評価規準

- 長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べることができる。

(数学的な考え方)

(3) 本時で付けたい資質・能力に対する手立て

- 身近な課題を提示して、自分で解決しようとする意識をもたせる。時刻や時間について読み取ったり表現したりする場合は、国語的な読解力が必要なので、時間の流れを感じ取らせるような場面（始まるの時間や終わりの時間）等を想起させ、問題場面を読み取る力を身に付けさせたい。

(4) 準備物

挿絵の拡大図， 模型時計

(5) 学習の流れ

学習活動	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) ・努力を 要する児童への手立て (●) と 評価 (※)
1 前時の学習の振り返りをする。	○1日の時間について、振り返りましょう。 ・1日＝24時間です。 ・一日の中には、午前・午後をつけて読む時間がありました。	○1日＝24時間や一日の中には、午前・午後を着けて読む時間があったことを確かめる。
2 問題を把握する。	教科書P72の①～⑤の時間や時こくをもとめましょう。	○短針(青い針)が時を、長針(赤い針)が分を表していることを確認する。
3 見通しをもつ。	○時計の短い針や長い針がどう動くのかを予想して問題を考えましょう。 ・後の時には、右回りに針が動き、前の時には、左回りに針が動きます。	○問題の場面をイメージできるように、時計の針を動かして考えさせる。
4 本時のめあてを確認する。	時計のはりを動かして、時間や時こくを考えよう。 ○どのように考えたか発表しましょう。	
5 自力解決をする。	○時計の針を動かして時間や時刻を考えましょう。 ①短い針は、9から10まで動きます。 ひき算で考えて、 $10 - 9 = 1$ <u>答えは、1時間です。</u>	●時計の針の動きが想像できにくい時は、担任と一緒に針を動かしながら考えさせる。
6 思考を確認する。	②午前11時から2時間後は、「後」だから、たし算で考えて、 $11 + 2 = 13$ 午前13時は、 $13 - 12 = 1$ だから、午後1時です。 <u>答えは、午後1時です。</u> ③午後5時から1時間前は、「前」だから、ひき算で考えて、 $5 - 1 = 4$ だから、午後4時です。 <u>答えは、午後4時です。</u> ④15分後は、15目盛り針が進むので、長針が12から3まで進みます。 だから、午後3時15分です。 <u>答え、午後3時15分です。</u>	※時計の針を見て、問題用紙に短針や長針を書き込みながら考えることができる。 (ノート・行動観察)

7 本時の学習のポイントを確認する。	時間の前・後を考える時は、時計のはりを動かすと時間や時こくがわかった。	○分かったことや次に学習したいことなどを書かせることで、学びの実感をもたせる
8 評価問題を	<ul style="list-style-type: none"> ①午後6時から、午後8時までの時間。 ②午後0時から3時間後の時こく。 ③午前10時から1時間前の時こく。 ④午前2時15分から30分後の時こく。 ⑤午前8時40分から25分前の時こく。 	
9 本時を振り返り、次時につなげる。		

(5) 板書計画

5/31
P72

時こくと時間



時計のはりを動かして、時間や時こくを考えよう。

つぎの時間や時こくをもとめましょう。

①午前9時から午前10時までの時間
午前10－午前9＝1
答え 1時間

③午後5時から1時間前の時こく
午後5時－1時間＝午後4時
答え 午後4時

②午前11時から2時間後の時こく
午前11時＋2時間＝午前13時
午前13時は、午後1時
答え 午後1時

④午後3時から15分後の時こく
午後3時＋15分＝午後3時15分
答え 午後3時15分

※教科書の挿絵の拡大図

- ① 午前9時から午前10時までの時間の拡大図
- ② 午前11時から2時間後の時こくの拡大図
- ③ 午後5時から1時間前の時こくの拡大図
- ④ 午後3時から15分後の時こく

Ⓜ 時間の前・後を考える時は、時計のはりを動かすと時間や時こくがわかった。